

住みよいのぼりべつにす るために ~第30回まちづくり 市民のつどい~

11月27日(日)、市民会館で『第30回まちづくり市民のつどい』（登別市民憲章推進協議会主催）が開かれました。

この催しは、市民憲章の精神をお互いに理解し、市民一人ひとりがうるおいと活力のある『住みよいのぼりべつ』を築こうと、毎年この時期に行われているものです。

この日は、最初にアトラクションとして、幌別中学校吹奏楽部が『マイウエイ』など4曲を力強く演奏。続いて、若草小学校6年生児童が朗読劇『ショウ君へ』を上演しました。この朗読劇は、阪神大震災で亡くなった1歳の男の子の両親と妹の思いを表現したもので、会場に詰め掛けた市民から大きな拍手が送られていました。

開会式では、佐藤逸夫会長が「緑豊かな美しい自然を心の支えに、環境美化と花いっぱい運動を展開し観光都市にふさわしい美しいまちづくりを推進したい」とあいさつしました。この後、鳥居一頼さん（若草小学校長）が『市民が主体的に動くときあしたが見える』と題して講演。鳥居さんは「知恵と手間と時間をかけて、地域づくりをしなくてははいけない」などと話し、参加した市民は、熱心に耳を傾けていました。



幌別中学校吹奏楽部の演奏



若草小学校6年生の朗読劇

障害への理解を深める

~ 障害者の日記念事業作品展 ~



11月25日(金)から27日(日)までの3日間、登別中央ショッピングセンター・アーニスで『障害者の日記念事業作品展』（登別市障害者福祉関係団体連絡協議会主催）が開かれました。

この催しは、12月3日～9日の障害者週間を前に、障害のある方の社会参加や障害への理解を深めてもらおうと、行われたものです。

会場では、書道やちぎり絵、木工クラフト、パッチワークなど、障害のある方が制作に取り組んだ約100点の作品が展示され、来場者は多彩な作品にじっくりと見入っていました。

なお、同協議会は、7月に約70人が参加して、JR幌別駅周辺の清掃奉仕活動『クリーン作戦』なども行っています。

優勝目指し、熱戦を展開

~ 第23回市民ミニバレー大会 ~

12月4日(日)、総合体育館で『第23回市民ミニバレー大会』（市、文化・スポーツ振興財団、登別ミニバレー協会主催）が行われました。

今年の大会には、男子15チーム、女子17チームの計32チーム・142人が参加。開会式では、昨年の優勝チームから優勝旗が返還された後、参加者全員でラジオ体操を行い、体をほぐしました。

試合は、最初に男女別の予選トーナメントを行った後、勝ち上がった男子8チーム、女子10チームが優勝を目指して熱戦を展開。会場では、応援に駆けつけた参加者の家族や友人から、大きな声援が送られていました。

惜しくも予選で敗退したチームは、男女別の交流戦に出場するなどして、交流を深めていました。

